



カケハシ・プロジェクト招へいプログラムの記録 国際ポエトリー交流プログラム(IPEP) (米国)

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」として、米国から高校生及び引率者13名が2018年10月29日～11月6日の日程で来日し、日本の政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策などの対日理解促進を目的としたプログラムに参加しました。沖縄県では、韓国、フィリピン及び日本の高校生と共に、詩を通じた交流を行いました。また、講義やホームステイなどを通じて幅広く日本を理解する機会を持ち、各々の関心事項や体験についてSNSを通じて对外発信を行いました。帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。

【参加国・人数】

米国：13名

【訪問地】

東京都、沖縄県

2. 日程

10月29日(月)	【来日】	
10月30日(火)	【オリエンテーション】	
	【講義】	SIMA 国際経営研究所 木村 秀夫氏
	【視察】	皇居
	【視察】	江戸東京博物館
10月31日(水)	東京都から沖縄県へ移動	
	【視察】	玉泉洞、琉球王国城下町
	【文化体験】	エイサー体験
11月1日(木)	【学校交流】	沖縄県立首里高等学校
	【交流】	国際ポエトリー交流
11月2日(金)	【視察】	首里城
	【講義】	戦争体験講話
	【視察】	平和祈念公園・沖縄県平和祈念資料館
	【ホームステイ対面式】	
11月3日(土)	【ホームステイ】	
11月4日(日)	【ホームステイ歓送会】	

沖縄県から東京都へ移動

【交流】

御殿場西高校生徒との交流

【ワークショップ】

11月5日(月)

【都内視察】

明治神宮・原宿

【交流】

内閣総理大臣夫人

【歓送会】

11月6日(火)

【都内視察】

浅草寺

【離日】

3. プログラム記録写真



10/30【講義】SIMA 国際経営研究所 木村秀夫氏



10/31【文化体験】エイサー体験



11/1【学校交流】沖縄県立首里高等学校



11/1【交流】国際ポエトリー交流



11/4【ホームステイ歓送会】



11/4【ワークショップ】

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 最も印象に残ったプログラムは、講義と学校交流です。日本の歴史と文化を良く理解することができて素晴らしいと思いました。また、沖縄県平和祈念資料館も大変良かったです。ここで話を聞いた後、アメリカ・日本・フィリピンのそれぞれの歴史を繋げることができたので、とても良い方法だと思いました。

◆ 沖縄戦の講話と首里高校での交流が一番思い出に残るプログラムとなりました。講話は、戦争で父親を亡くした方が話をしてくれたので、衝撃を受けました。首里高校での学校交流は、生徒との相互交流という点が素晴らしかったです。日本の生徒は踊りを教えてくれ、歓迎されていると感じました。私たちは、外務省にも行くことができました。重要な会議が行われる場所を訪れ、実際にその座席に座ることができ、良い経験となりました。ホームステイは、想像していたものと少し違っていました。家族の母国である、アフリカに帰ったような気持ちになりました。

◆ 講義は時間が長く、詳細なものでした。講義を受け、物事を違った見方で見られるようになりました。学校交流は、素晴らしいプログラムで大好きになりました。他の国からの参加者とも会い、それぞれの言葉で話ができ楽しかったです。日本の学生を通して、ポップカルチャーやアメリカがどのように見られているかを知ることができました。

外務省を訪れたときは、自分の国の政府と比べて、日本の政府がどのように機能しているかを理解することができました。

ホームステイもとても良かったです。食事は、愛情をこめて用意されていましたし、温かく受け入れてもらいました。私は、自らが体験した沖縄の文化を、本当に楽しむことができました。エイサーを踊ったことも、とても楽しい思い出です。また、その背景にある歴史も知ることができました。

5. 受入れ側の感想

◆ 学校交流参加学生

今回、参加して本当に良かったと思いました。それぞれの国の表現や普段感じていることなど、お互いの様々な面を見ることができました。発表が終わり、お互いの詩を読んで、その感想を話し合ったり、解説を聞いたりしていると、本当に楽しくてもっと聞いてみたい、その人の国のことをもっと知りたい、と思うようになりました。

大変なことも多かったですし、予想がつかないこともありましたが、今までの私の考え方を変えてくれたこの交流は、これから多くの人々にも参加してもらい、詩の楽しさや他国の人々との交流の楽しさを知って欲しいと思いました。

◆ ホストファミリー

進んで手伝いをしようという姿勢で何事にも取り組んでくれました。車の移動中、歌を歌っていて、打ち解けてくれている様子が分かり良かったです。また、母国の家族に電話で紹介してくれて嬉しかったです。

6. 参加者の対外発信

Alondra UribeさんはEllen Haganさんと一緒にいます。 土曜日 8:35 · 那覇市 · 🌐 Found happiness in Japan and I never plan on leaving ❤️ #IPEPJAPAN  👍👍👍 24件 プログラムについての発信 (Facebook) 日本で幸せ発見。ここから離れたくない。 #IPEP 日本	Aichatou Traoreさんが写真6件を追加しました。 月曜日 9:47 · 🌐 IPEP Japan Experience #IPEPJAPAN #KAKEHASHI2018 #JICE  👍👍 12件 コメント4件 プログラムについての発信 (Facebook) 「IPEP 日本」での経験
--	---

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

 毎年、インターナショナルディナーというイベントで、様々な文化的背景を持つ生徒が、その文化の食べ物や踊り、民族衣装を紹介するのですが、その時に沖縄のエイサーを踊りたいと思っています。また、日本の食べ物も紹介するつもりです。 私たちをもてなして下さった方々や日本文化に大きな影響を受けました。掲示板やテレビに日本で撮った写真を新しく掲載し、同級生に日本のことをよく知ってもらおうと考えています。
--